

## マーケットの動き（2022年5月16日～5月20日）

先週の米国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。FRB（米国連邦準備制度理事会）が積極的な金融引き締めを行うとの観測は根強いものの、市場で米国の景気後退に対する懸念が強まつたことから、米国金利は低下しました。  
ドイツ債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。

## 投資環境見通し（2022年5月）

## 長期金利は米国ではレンジ内での動き、欧州（ドイツ）では方向感に欠ける展開

**米国：**FRB（米国連邦準備制度理事会）による利上げやバランスシート圧縮のペースを確認しつつ、次第に金融政策を巡る先行き不透明感が後退するとみています。長期金利の上昇は一服すると予想されますが、物価動向についても依然として不透明な状況下で低下余地も限定的とみられ、当面はレンジ内で推移するとみています。

**欧州：**米国長期金利の動向やECB（欧州中央銀行）による量的緩和政策の終了時期ならびに利上げ開始を巡る思惑、ウクライナ情勢とエネルギー価格や物価関連の経済統計を材料視しつつ、当面は方向感に欠ける展開を予想しています。

	5月20日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） (変動幅)	2.79	▲0.14	▲0.05	1.25	1.16
FTSE世界債券インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	509.44	▲0.10%	▲1.99%	▲1.20%	1.26%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

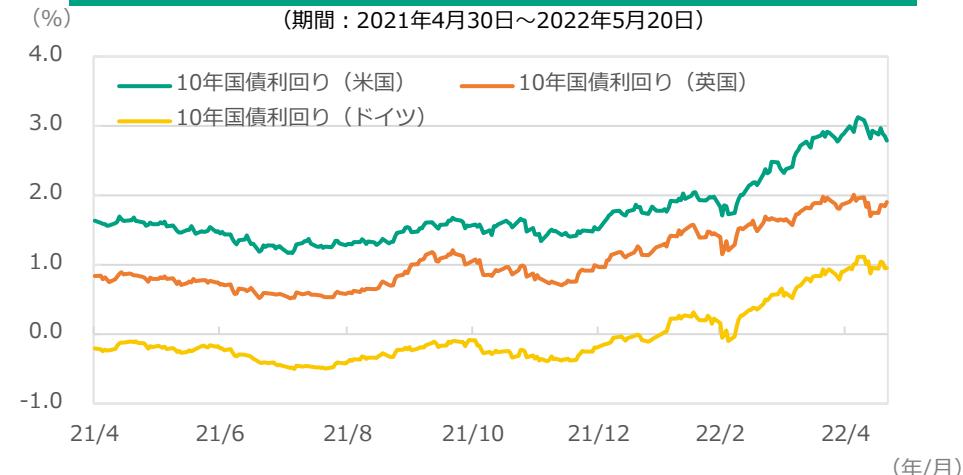
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202205\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202205_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国債利回りの推移

（期間：2021年4月30日～2022年5月20日）



## FTSE世界債券インデックスの推移

（期間：2021年4月30日～2022年5月20日）



※2021年4月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成